

1 そもそも好酸球って何？

好酸球は、白血球という血液の細胞のひとつです。血液中を流れる好酸球は、炎症を起こしている場所に集まる性質があります。主には皮膚、気管支や肺、胃腸などですが、集まってきた好酸球は特殊な顆粒を放出して、侵入した寄生虫や細菌、真菌（カビ）などを攻撃します。これは同時に、周りの組織を傷つけてアレルギー反応を引き起こしたり、アレルギーが起こりやすい状態を作り上げる原因となります。

検査のはなし vol.10

専門医が教える

検査値異常を指摘された際に考えること②

「血液中の白血球のうち、好酸球が多いと言われました」



日本臨床検査専門医会
田部 陽子

2 好酸球はどんな病気で増える？

健康な人では、好酸球が白血球の中で占める割合は5%程度で、少し多いくらいであれば、とくに治療は必要ありません。好酸球増加症という病名がつくのは、正常な範囲の3倍以上に増えたときで、このような場合は、好酸球が増える病気の可能性があるため、病院を受診したほうがよいでしょう。

好酸球増加症の原因として、日本で一番多いのは、薬剤アレルギーです。気管支喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患でも好酸球が増えますし、寄生虫に感染したときにも増加します。発展途上国では、好酸球増加症の原因で最も多いのは、寄生虫感染症です。そこで、好酸球が増えている場合には、どんな薬を飲んでいるか、アレルギーに関連する病気はないか、海外やで無農薬野菜などで寄生虫に感染した可能性はないか、ということから調べていきます。好酸球が増える原因がわからないということもあります。好酸球を増加させる物質や細胞はさまざまなので、自然に治ってしまうこともあれば、治療が必要な場合もあります。

3 好酸球が増えるとどんな症状が出る？

体のどの場所で好酸球が増えているのかということで症状は違ってきます。例えば、胃腸に炎症があって好酸球が増えるときには下痢などが起こります。全身的な症状としては、疲労感や発熱、筋肉痛などが起こることが多いです。

図 好酸球の仕組み

